

令和6年度県北オープン

国語

受験上の注意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、50 分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて17 ページです。

また、別に解答用紙が1枚あります。監督者の指示に従い、解答用紙のきめられた欄に氏名、フリガナ、中学校名、受験番号を書き、受験番号の下マーク欄にマークしなさい。

- 4 監督者の「始め」の合図があったら、試験を始めなさい。
- 5 答えはすべて、最も適当なものを一つ選んで、解答用紙のきめられた解答欄にマークしなさい。
例えば、大問 $\boxed{1}$ の1の(1)の問いに対してアと解答する場合は、次の(例)のように、 $\boxed{1}$ の1の(1)の解答欄の $\textcircled{ア}$ を塗ってマークする。

(例)

$\boxed{1}$	解答欄
1 (1)	☒ ☐ ☐ ☐

- 6 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

1

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の――線の部分はどう読むか。

(1) 生活費を自分で稼ぐ。

ア しの イ かせ

ウ とつ エ かつ

(2) 彼の発言で会議が紛糾した。

ア こきよう イ こきゆう

ウ ふんきよう エ ふんきゅう

(3) この船は半年の航海にも堪えている。

ア た イ こ

ウ たずさ エ そな

(4) 時代の変遷を記録した書物。

ア へんかん イ へんそん

ウ へんせん エ へんけん

(5) その選手は最高殊勲賞を受賞した。

ア しゅうどう イ しゅくん

ウ しゅうどう エ しゅうくん

2

次の――線の部分を漢字で書いたとき、同じ漢字になるものはどれか。

(1) キ製服を販売する店。

ア 数キな運命をたどる。 イ 四キそれぞれの気候。

ウ 月のキ道を観察する。 エ 皆キ月食を撮影する。

(2) 新たに小説をシツ筆する。

ア 手術のシツ刀医。 イ 古典的なシツ器。

ウ シツ責することをやめる。 エ 他人の成功にシツ妬する。

(3) 一国を統チする者。

ア チ療のために休職する。 イ 観光客を誘チする。

ウ チ拙な文章を修正する。 エ チ代紙で鶴を折る。

(4) 船から絶海のコ島を眺める。

ア 道具を倉コに片づける。 イ 生涯、コ高の生活を送る。

ウ 括コの中に答えを書く。 エ コ大広告に注意する。

(5) 毎日ピアノをピく。

ア 人形を器用にアヤツる。 イ 元気に飛びハねる。

ウ 心の琴線にフれる音楽。 エ ハズんだ息を整える。

3 「明日からは晴天が続くそうだ。」の——線の部分と文法的に同じ働きのものとはどれか。

ア この問題を解決するにはもう少し時間がかかりそうだ。

イ 一年かかって読んでいた本を今日で読み終えられそうだ。

ウ 受験生は全員試験の開始前に注意事項を確認するそうだ。

エ あの部屋には荷物を置きそうだったので置いてきたよ。

4 次の文のうち、慣用句の使い方が適切なものはどれか。

ア 簡単に叶う夢ではないので、大風呂敷を広げて努力する。

イ 兄は毎日厳しい練習を重ね、満を持して舞台に立つ。

ウ 友人が転校するという噂は、下駄を履かせたように広まった。

エ 彼の演技は板についていて、全く躍動感がなかった。

5 次の□に入る最も適切な表現はどれか。

先生はもうその演劇を□。(生徒から先生に質問している場面)

ア ご覧になりましたか イ ご覧になりましたか

ウ 拝見になりましたか エ ご拝見されましたか

6 次の熟語のうち、異なる構成をもつものはどれか。

ア 円安 イ 骨折 ウ 実施 エ 年少

7 次の和歌の情景や心情を説明したものとして適切なものはどれか。

志賀^{しが}の山越えにてよめる

紀^き秋^{あき}岑^{みね}

白雪の所もわかず降りしけばいはほにも咲く花とこそ見れ

ア 白雪が、降る場所の区別もしないで一面に降り敷いたので岩にまで花が咲いたように見えると表現することで、山中の雪の美しさを詠っている。

イ 白雪がやむ間もなく降りしきる様子を、どこに花が咲いていたのかまったくわからなくなったと表現することで、降る雪の激しさを詠っている。

ウ 岩の間からのぞくように一輪の白い花が咲いていたのを、わずかに解けずに残っている雪のようだと表現することで、春の到来を詠っている。

エ 白雪がいつやむのかもわからないまま過ぎているが、花が春を連れてくるのだと表現することで、一面に花が咲く景色を早く見たいと詠っている。

2

次の文章を読んで、1から7までの問いに答えなさい。

故鎌倉の大臣殿の、御京上あるべきに定まりける。世間の人、
 内々歎き申しけれども、事に顕れて申す事なかりけり。さすが
 に人の歎きにやと思ひ給ひて、人々、京上あるべしや否や
 の評定ありけるに、上の御気色を恐れて、子細申す人なかり
 けり。故筑後前司入道知家、遅参す。この事意見申すべきよし、
 御気色ありければ、申されけるは、「天竺に師子と申す獣は、一
 切の獣の王にて候ふなるが、余の獣を損ぜんと思ふ心は候はね
 ども、その音を聞く獣は、みな肝失ひ、或は命絶え候ふとこそ
 承れ。されば、君は人を悩まさんと思しめす御心はなけれ
 ども、人の歎き、争か候はざらん」と申されければ、「御京上は
 留まりぬ」と仰せありける時、万人〔6〕。「聖人は心なし、万
 人の心をもて心とす」と云へり。人の心の願ふ所をまつりごとと
 す、これ聖人の質なり。

〔沙石集〕から〕

(注1) 御京上あるべきに定まりける＝都へ上られることが決まった。

(注2) 子細＝支障。

(注3) 筑後前司入道知家＝鎌倉幕府の重鎮の一人。

1 評定⁽¹⁾ とあるが、意味として適切なものはどれか。

ア 会議 イ 成績 ウ 思惑 エ 口論

2 子細申す人なかりけり⁽²⁾ とあるが、その理由として適切なものはどれか。

ア 故鎌倉の大臣殿に仕えることの重責に誰もが耐えられない
 と思ったから。

イ 世間の人々が、故鎌倉の大臣殿が京に上られることを既に
 知っていたから。

ウ 故鎌倉の大臣殿が京に上られることを口外してはいけな
 いと思ったから。

エ 故鎌倉の大臣殿の機嫌を損なうことになるのではないかと
 思ったから。

3 思ふ心は候はねども⁽³⁾ を現代仮名遣いに直したとき、正しい
 ものはどれか。

ア おもうところはそうらはねども

イ おもうところはこうらわねども

ウ おもうところはそうらわねども

エ おもうところはさうらはねども

4 人の歎き、争か候はざらん とあるが、現代語訳として適切なものはどれか。

ア 人々の歎きはどうすればよろしいでしょうか

イ 人々の歎きは どうして ない でしょうか

ウ 人々の歎きは どれほど に ございます でしょうか

エ 人々の歎きは いくつか は なくなる でしょうか

5 御京上は留まりぬ とあるが、このように判断した理由として適切なものはどれか。

ア 自分が京へ行こうとすることは、自身の身を危険にさらすことにしかないと感じたから。

イ 自分が京へ行こうとすることで、世間の人が迎え入れのための準備に忙殺されることを知ったから。

ウ 自分が京へ行こうとすることが、どれほど世間の人に影響を及ぼすのかということに気づいたから。

エ 自分が京に行こうとすることについて、家臣からその目的や意義を明確にするように求められたから。

6 (6) に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 怒り申しけり

イ 歎き申しけり

ウ 驚き申しけり

エ 悦び申しけり

7 筆者の主張として適切なものはどれか。

ア 人の上に立つ者は、世間の人を路頭に迷わせるようなことがないように常に先を見据えた行動をとるべきだ。

イ 人の上に立つ者は、ときに世間の人から非難されようとも、自分の意思を貫き通す姿勢をはっきりと示すべきだ。

ウ 人の上に立つ者は、自分の意思や考え以上に世間の人の意思や要望に耳を傾け、それに沿った行動をとるべきだ。

エ 人の上に立つ者は、自分の身の危険を顧みることなく、世間の人のために命をささげる覚悟を持つべきだ。

3

次の文章を読んで、1から7までの問いに答えなさい。

人生の最も大きな喜びの一つは、年来の希望が実現した時、⁽¹⁾長年の努力が実を結んだ時に得られる。私のような研究者にとつては、長い間、心の中で暖めていた着想・構想が、一つの具体的な理論体系の形にまとまった時、そしてそれから出てくる結論が実験によって確認された時に、最も大きな生きがいを感じられる。しかし、そういう瞬間は、私たちの長い研究生活の間に、ごくまれにしか訪れない。⁽²⁾私たちの人生のほとんど全部は、同じようなことのくりかえし、同じ平面の上でのゆきつもどりつのために費やされてしまう。日々の努力によって、相当前進したつもりになつていても、ふりかえつてみると、結局、同じ平面の上の少し離れたところにきているに過ぎないことを、あまりにもしばしば発見する。一つの段階からもう一つ上の段階に飛びあがれるのは、それこそ天の羽衣^(注1)がきてなでるほどに、まれなことである。

そんなら人生の大半は、小さくいえばその人の個人としての進歩・飛躍、大きくいえば人類の進歩・飛躍とは無関係な、エネルギーの消費に終始しているのであらうか。決してそうではないように思われる。aムダに終わってしまったように見える努力のくりかえしの方が、たまにしか訪れない決定的瞬間より、ずっと深い大きな意味を持つ場合があるのではないか。ずっと若いころの私は「百日の労苦は一日の成功のためにある」という考えに傾いていた。近年の私の考え方は、年とともにそれとは反対の方向に傾いてきた。それに伴って、真理の探求

の道を歩いた多くの科学者に対する私の評価も、昔と今とで大分違つてきた。

【ある科学者が画期的な発見をするとか、基本的に新しい着想から出発した、ある学説を提唱するとかした場合、私たちはもちろん、その学者を高く評価する。一言にしていえば、科学者をそのXによって評価する、それは確かに公正なYである。どんなにその学者が苦心^(注2)さんたんしたにせよ、そこから独創的なXが生まれなかつたら、多くの場合、私たちはその人のZを認める正当な理由を持ち得ないであらう。それはそうに違いない。しかし同時にそれは、(3)評価でもある。】

b、私たちは自分以外の学者の大多数が、どういう苦勞をしているか、何に苦勞をしているかを知らない。自分の身近の少数の学者について、c遠くにいる学者がある大きな成功を収めた場合についてだけ、それらの人々の苦心を知らされたり、関心を持つたりするのである。一人の人間の能力はきわめて限られている。自分以外の多数の人たちの苦勞に一々関心を持つていたのでは、自分自身が失われてしまうであらう。それもその通りである。

しかし、それにもかかわらず、私は近来、外から見て、離れて見て、ある人の評価をするだけではないということ、ますます強く感じるようになってきた。ある人が何のために努力しているか、何を苦勞しているかという面を、もっと重要視しなければならぬと思うようになってきた。天の羽衣がきてなでるといふ幸運は滅多に来ない。一度もそういう幸運に恵まれずに一生を終わる人の方がずっと多いであらう。しかし、だ

からといって、そういう人の人生は無意味であったとは限らない。他人は知らなくても、その人自身は何かについて苦心をしつづけていたかも知れない。その「何か」が重要なことであつたかも知れない。「どんな風に」苦心したかが重要であつたかも知れない。

絵をかく人は、絵になる以前のイメージを自分の中で暖^{あた}め育ててきたであろう。彫刻家は素材を前にして、まだ現実化されない理想的な形態を思い浮かべているであろう。科学者の研究が一応完結するまでに、一編の論文となるまでに、どんなに長い間、生みの苦しみをつづけてきたのか。ついに絵にならない場合、ついに彫刻が完成しない場合、論文が出版されない場合、それがどんなに多いか。外から離れて見る者にはわからない。いわばそれは具象以前の世界である。混沌^{こんん}から、ある明確な形態をもった物が生まれるより以前の世界、生まれようとしている世界である。その人自身にとって、また深い関心をもって、その人の世界を知ろうとする人にとって、それは無意味な世界ではない。

(4) 科学文明の発達の結果として、情報伝達の方法が急激に変化してきた。新聞・ラジオ・テレビ等を通じて、私たちに与えられる情報が、ますます重要となり、私たちに圧倒的な影響を及ぼすようになってきた。それは一方では、遠く離れたところで起こった出来事、自分と直接関係のない人々を、身近に感じさせる作用を持っている。他方ではしかし、情報を受けとる個人の特殊性を越えて、あらかじめ選択された情報を万人に同じように与える作用をも持っている。それは既に具象化されたもの

の中からの選択である。具象以前の世界は初めから問題になっていない。

情報伝達だけではない。人間の頭脳の機能の一部までも機械が受けもつてくれるようになってきた。しかし、そういう機械もまた、既に具象化された知識を適当な記号の形に変えた時にだけ質問として受け入れてくれるのである。そしてその機械が与えてくれる答えもまた、具象化された知識に関するものだけである。

人間は具象以前の世界を内蔵している。そしてそこから何か具象化されたものを取り出そうとする。科学も芸術もそういう努力のあらわれである。いわば混沌⁽⁵⁾に目鼻をつけようとする努力である。人生の意義の少なくとも一つは、ここに見出し得るのではなからうか。

(湯川秀樹「湯川秀樹詩と科学」から)

(注1) 天の羽衣がきてなでる〓天人が百年に一度地上に降りてきて、大きな岩を羽衣で撫^なでることから、非常にまれであるということのたとえ。

(注2) 苦心さんたん〓心を碎いて非常な苦勞を重ね、工夫を凝らすこと。

1 本文中の **a**・**b**・**c** に入る言葉の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア a あるいは b しかも c むしろ
 イ a むしろ b ところで c あるいは
 ウ a あるいは b ところで c むしろ
 エ a むしろ b ただし c あるいは
 オ a むしろ b しかも c いわば

2 長年の努力が実を結んだ ⁽¹⁾ について、これを表すことわざとして適切なものはどれか。

- ア 雨垂れ石を穿つ ^{うが} イ 籠で水を汲む
 ウ 濡れ手で粟 ^{ぬれ} ^{あわ} エ 労多くして功少なし

3 同じ平面の上でのゆきつもどりつのために費やされてしまう ⁽²⁾ とあるが、この説明として、最も適切なものはどれか。

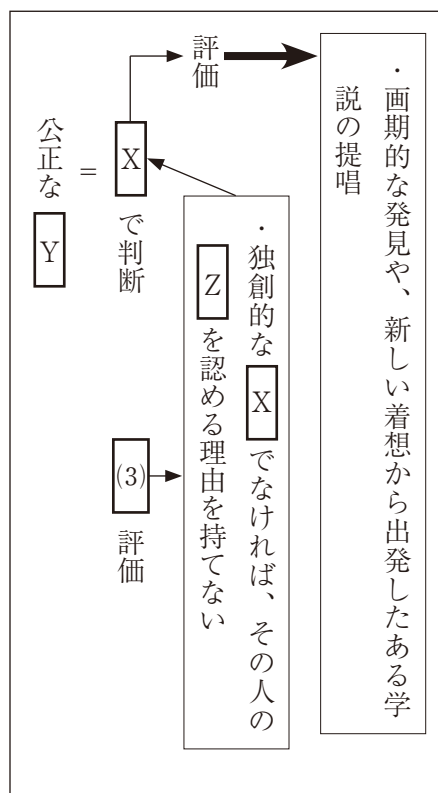
ア 自分の研究が結果的に人類の進歩・飛躍とは無関係な位置に存在し、エネルギーの消費に終始していること。

イ 研究を通して次々に新しい着想や構想が生まれてくるため、自分の追究すべき真の課題を見失ってしまうこと。

ウ 他の研究者から受ける批判により、個人的に暖め続けてきた着想や構想の方向転換を余儀なくされること。

エ 個人の着想や構想が一つの理論体系となり、そこから結論が生み出されても、実験による確証がなされず停滞すること。

4 本文中の「**1**」の部分について、次のようにまとめた。これを見て、(I)・(II)の問いに答えなさい。また、表中の **X**・**Z**と **(3)** は、本文中のそれぞれと対応している。



(I) **X**・**Z** にそれぞれ当てはまる言葉として適切なものは次のうちどれか。

- ア 価値 イ 関心 ウ 未来 エ 業績 オ 態度

(II) **(3)** に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 独断と偏見に基づいて近視眼的に見た時の

イ 自分と比較した時の、相対的に見た時の

ウ 外から見た時の、やや離れて見た時の

エ 単一の情報の事実を公正な視点で見た時の

5⁽⁴⁾

科学文明の発達の結果として、情報伝達の方法が急激に変化してきた。とあるが、これに対する筆者の考えとして、最も適切なものはどれか。

ア あらゆるメディアから、一つの情報を選択し、同じ視点から追究し続けていくことで、具象化されたものを取り出す重要性が認識される。

イ メディアからあらゆる情報が提供されることで、遠くの人々や出来事をより正確に把握することができるが、情報自体が個人の特殊性を越えてしまう。

ウ メディアが発信する情報は、瞬時に万人に同じように与えられるものであり、それらの情報から事実の判断や評価の基準の設定が可能になる。

エ メディアから得られる情報から大きな影響を受けるようになったが、明確な形態を持つに至るまでの世界については考慮されることがない。

6⁽⁵⁾

混沌に目鼻をつけようとする努力。とあるが、これが指すものとして最も適切なものはどれか。

ア 人間の頭脳の機能の一部として機械が与えてくれた答えを目に見える形にして取り出そうとする努力。

イ 既に具象化された知識の中から、機械が的確な記号の形に変換することができない質問を取り出そうとする努力。

ウ 心の中で育んできた独自の着想や想像を膨大な時間を要しながらある明確な形態として取り出そうとする努力。

エ 既に具象化されたものをもとに、そこから深い関心をもつてより伝わりやすい状態にして取り出そうとする努力。

7

ア たとえその日その日を何となく暮らしていても、たいていの人の人生は人類の進歩や飛躍につながっている。

イ 筆者は若いころ、成果や結果を重視していて、その結果にたどりつくまでの過程に関しては評価していなかった。

ウ 長い時間や労力を費やしたとき、天の羽衣がきてなでるという減多にない幸運を呼び寄せることができる。

エ 具象以前の世界を掘り起こすためには、今後さらに機械技術の向上をはかり、その性能に頼る必要がある。

次の文章を読んで、1から8までの問いに答えなさい。

中学一年の塚原マチは陸上部に入部したい気持ちもあったが、結局科学部に入部する。ある日、マチが図書館で借りた本に、誰かからのメッセージを見つけ、マチがそのメッセージの返事を本にはさんだことから、手紙のやりとりが始まった。同じクラスには陸上部で学級委員の守口みなみ、バスケットボール部の光田琴穂（こうだことほ）という仲の良い友達がいる。入学当初、マチに親切にしてくれた、高坂紙音が学校を休みがちとなったため、マチは帰りがけに紙音の家に寄るようになる。

文化祭の合唱練習の間も、みなみとマチは紙音の家を何度も訪ねた。しかし、応対に出てくるのは最初の日と同じように、いつでも紙音のお母さんだけだった。

一学期の最初、マチの制服のしつけ糸を切ってくれたあの子は、今、一人きりの部屋で過ごしているのかもしれない。そう考えると、胸の奥がきゅつとなる。

「私、一人で行こうか」

マチが言うと、みなみがびっくりしたように「え」と呟つぶやいた。

「高坂さんの家なら、何度もみなみちゃんと一緒に行ったし、私一人でも大丈夫だよ。みなみちゃん、新人戦の準備で忙しそうだし、明日も朝練があつて早いんでしょ？」

「そうだけど、マチを一人で行かせるのは悪いよ。遠回りになるし」

みなみが断りかけたとき、思いがけず、背後から「私、行くよ」という声がした。振り返って、驚く。

琴穂だった。

マチとみなみは思わず顔を見合わせる。そんな二人に向け、琴穂がさらに続けた。

「私がマチと一緒に行く。今日はバスケット部、陸上部ほど遅くならないと思うから、ちょっと待っててくれれば大丈夫だよ。私にまかせて、みなみは部活に行つて」

「助かるけど、でも」

みなみの声を遮るように、⁽¹⁾琴穂がすばやく首を振り動かした。

「みなみってさ、しっかりしてるのはいんだけど、一人でたくさんのことを抱えこんでがんばりすぎるんだよね。そんなじゃ、いつか参っちゃうよ。——今年の新人戦、陸上部の他の子に聞いたけど選手になれそうなんですよ？」

みなみの顔にはっとした表情が浮かぶ。琴穂がふう、と小さなため息をついた後で笑った。

「だったら、今はそっちががんばり時だよ。もっと頼つてよ。——これまで副委員長なのに全然頼りにならなかったのは、私が悪かったからさ」

言いながら、琴穂がマチを見た。「マチに仕事、だいぶ頼っちゃつてたし」と決まり悪そうに告げる。

「マチも、これまで、いろいろごめんね。私、部活を言い訳にしすぎてた。そんなこと言い出せば、みなみだって陸上部が大変なのに、委員の仕事したり、高坂さんの家、行ったりしてたんだもんね」

⁽²⁾ 謝った後で照れくさそうに目を伏せた琴穂の前に、みなみかとまどうような表情を浮かべる。ややあつてから、aと「いいの？」と琴穂を見た。

「頼んでも、平気？」

「うん」

琴穂が胸を張って頷いた。

(3) 一連のやりとりを驚きながら見ていたマチの頬がゆるんでいく。「ありがとう」とためらいがちにお礼を言うみなみを、とてもいいと思った。

いつもしっかりしているみなみが自分たちを頼ってくれたことが、嬉しくなる。

琴穂と二人で紙音の家に向かう途中、マチは改めて琴穂に礼を言った。

「さつきはありがとう。みなみちゃん、嬉しかったと思う」

横を歩いていた琴穂が、「だって」と笑う。

「みなみ、完璧すぎるんだもん。あれ、本人何でもないふうになってるけど、結構大変なはずだよ」

「私も実はちよつとそう思ったことがあったけど、言い出せなかったんだ。琴穂が言ってくれてよかった」

「うーん。みなみ、たぶん、自分が無理してることに気づいてないんじゃないかなあ。自分のことって、かえってなかなか気がつけないよね。私もそうだったし」

琴穂が「ごめんね」と頭をかく。

「私も合唱の練習、リーダーなのにちゃんとやってなかった。マチに注意されてはつとしたの」

「私こそ、あのときはキツイこと言っちゃってごめん」

あわてて謝ると、琴穂が「そう？」と首を傾げた。

「全然キツくなかったよ。むしろ普段おとなしいマチから言われるなんて、私、よっぽどだったんだなって反省した。——なんか、ありがとね。陰で**b**言うんじゃないくて、面と向かって言ってくれたから、かえって気分よかったよ」

「そんな……」

頬がかあつと熱くなった。

——はつきり自分の意見が言えない性格を直したい。

今年の四月、マチが中学校に入学するにあたって目標にしたことだ。その一步が踏み出せたように胸の奥がじん、とあたたかくなる。

琴穂から本音の声を聞いたように思えたら、マチもまた、その本音にこたえなくなる。自分のことについて話してみたくなった。

「私ね、いい子とか、真面目まじめって言われるの、少し嫌なんだ」

今も、琴穂から「普段おとなしいマチ」と言われたばかりだ。

おとなしい、優しい、いい子。褒め言葉なのに、マチを**(4)**言葉たち。琴穂がびっくりしたようにマチを見た。

「どうして？」

「自分の意見がはつきり言えない子だとか、面白くない、楽しくない子なんだって周りから思われてるようで、心配で」

話しながら、**c**と胸のつかえが取れていく。絶対には話せないと思っていたことだったのに、言葉に羽が生えたようだった。琴穂は相変わらず驚いていたが、聞き終えて大きく息を吐き出した。

「ごめんね、私、マチのことたくさんいい子って言った。褒め言葉のつもりだったんだけど無神経だったね」

「ううん。私が気にしすぎるのも確かだから」

「勉強できる子は、悩みなんかないと思ってた。私、マチのこと羨ましかったんだ」

「ええっ？ 私こそ、琴穂は運動神経もいいし、友達も多いから悩みなんかないと思ってた」

お互いに驚いたものの、いつの間にか、一緒に笑っていた。

「本当は私、陸上部に入りたかったんだ」

マチはさらに思いきって言ってみた。

「今は科学部が楽しいし、入ったことは後悔してない。だけど、四月の私は勇気がなくて……」

あのときは、琴穂に言われたことを気にしていたのだ。陸上部は練習が厳しいし、先輩たちもみんな怖いからやめた方がいい——、当の琴穂は四月に自分が言ったことを覚えてもいないだろう。だけど、その言葉がマチの気持ちに歯止めをかけた。

案の定、「ふうん」と他人事ひとことのように頷いた琴穂が、しかし次の瞬間、意外なことを言った。

「陸上部かあ。確かにマチ、小学校の頃から長距離得意だったもんね」

「え？」

「マラソン大会や体育の時間に見てた。私は最初に勢いよく飛ばして後半バテるのに、マチは根気強いっていうか、ペースに乱れが全然ないんだよね。最初から最後まで自分のペースを守る。すごいなあって思ってたんだ」

すぐに言葉が返せなかった。胸に、ある一文が蘇よみがえる。図書室で、見えない誰かが残した手紙。

『がんばってれば、見てくれるかな。』

見てくれるよ。

胸の中で、呼びかけていた。見てくれる人は、必ず、どこかにいる。⁽⁶⁾手をぎゅっと握り締め、琴穂に向けて「ありがとう」とこたえた。

(辻村深月「サクラ咲く」から)

1 本文中の a・b・c に入る言葉の組み合わせと

して適切なものはどれか。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ア | a | そわそわ | b | こそこそ | c | ぐらぐら |
| イ | a | そわそわ | b | いやいや | c | だんだん |
| ウ | a | おずおず | b | ひそひそ | c | ぐらぐら |
| エ | a | おずおず | b | こそこそ | c | だんだん |
| オ | a | いそいそ | b | ひそひそ | c | だんだん |

2 ⁽¹⁾ 琴穂がすばやく首を振り動かした ⁽¹⁾ とあるが、この時の琴穂

の気持ちとして適切なものはどれか。

ア 自分が行くことを提案したが、意外にもみなみが自分の提案を否定しなかったことに驚く気持ち。

イ みなみ自身がどうしてほしいのか、すぐにはつきりとした返事をしないことに苛立いらだつ気持ち。

ウ みなみが何でも一人でやろうとするところが気になって、なんとか手助けをしてやりたいという気持ち。

エ みなみが新人戦への十分な準備もできていないのに、他のことに気を取られている状態を心配する気持ち。

3 ⁽²⁾ とまどうような表情 とあるが、この表現が表すみなみの心情として適切なものはどれか。

ア 琴穂に無理をさせるのではないかという気持ちもありつつ、琴穂の優しさに甘えてもいいのかなとも思っている。

イ がんばりすぎる点を指摘され、まさか琴穂にそんなことを言われるとは思っていなかったので動揺している。

ウ ありがたいと思う反面、琴穂に頼らなくても自分でできるとも思っているので、余計な親切だと感じている。

エ しつかりしているつもりだったのに、周囲には無理をしているように見えていたのかと感じ、落ち込んでいる。

4 ⁽³⁾ 一連のやりとりを驚きながら見ていたマチの頬がゆるんでいくとあるが、この時のマチの心情として適切なものはどれか。

ア お互いの考えを素直に伝えあったみなみと琴穂を見て、信頼関係が深まったのを感じている。

イ みなみにだけでなく、自分にも同じように気を配ってくれた琴穂の成長を頼もしく思っている。

ウ 琴穂も紙音のことを心配していることがわかって、そのことを紙音に伝えたいと思っている。

エ 琴穂の指摘や提案に素直に従ったみなみの行動を見て、自分もそうありたいと感じている。

5 (4) に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 苛々いらいらさせる イ ひどく傷つける ウ 失望させる

エ 翻弄はんろうさせる オ 息苦しくさせる

6 ⁽⁵⁾ 言葉に羽が生えたようだった とあるが、この表現が表す様子として適切なものはどれか。

ア 心に潜んでいた気持ちが、誇張された言葉になって出てくる様子。

イ 覚悟を決め、心に秘めていた言葉を次から次へと口にする様子。

ウ 心にのしかかっていた言葉たちが、少しずつ消えてなくなる様子。

エ 心の中にため込んでいた思いが、自然と口からこぼれ出る様子。

7 ⁽⁶⁾ 手をぎゅつと握り締め、琴穂に向けて「ありがとう」とこたえた とあるが、この時の「マチ」の気持ちとして適切なものはどれか。

ア 小学校の時の自分を覚えていてくれただけでなく、科学部にいる今の自分のことも認めてくれていた琴穂に感動する気持ち。

イ 琴穂がこれまでの言動を反省し、他人まかせにせず、自分たちと同じように紙音のことを気遣うようになったことを喜ぶ気持ち。

ウ 自分の言動を評価し自信をもたせてくれた琴穂に感謝するとともに、手紙のやりとりの相手を勇気づけたいと思う気持ち。

エ 運動神経がよく、友達も多く、悩みもなさそうな琴穂が、自分のことを尊敬していたのだとわかって誇らしく思う気持ち。

本文の表現の特徴として適切なものはどれか。

ア 「照れくさそうに目を伏せた」や「ためらいがちにお礼を言う」など、中学生らしいいぎこちなさや遠慮を表現しながら、それぞれにとって必要なことが何なのかを模索する様子が描かれている。

イ 「だいぶ頼っちゃってたし」や「キツイこと言っちゃって」などの友達同士のらしい会話から、素直な気持ちや思いやりの気持ちを表す機会を生み出した様子が描かれている。

ウ 「頬がかあつと熱くなつた」や「胸の奥がじん、とあたたかくなる」などの擬態語を用いることで、中学生特有の敏感な心の動きが徐々に伝わるように描かれている。

エ 「振り返って、驚く」や「頼ってくれたことが、嬉しくなる」など、時折現在形で表すことで、予期しなかった状況に対する反応が臨場感を伴って描かれている。

5

次の文章を読んで、1から7までの問いに答えなさい。

地球上の多種多様な種は、様々なニッチ^(注1)に対応して生まれて来た。今日の種の多様性はこのニッチの多様性の上に成り立っている。生物は空いているニッチに入り込む(適応する)ことによって生き延び、やがてその中から新しい種が生まれてくる。なんらかの理由でニッチの空白(そこを占めていた生物種の絶滅)が生じてもやはり同じことが起こる。

一般に生物は自分でニッチを変えることはできず、常に定められたニッチの範囲内でしか生きることができない。移動できない生物はもちろんのこと、移動できる生物もまた同様である。

しかし、人間だけは自分に都合のいいように環境を変えることで、ほとんどどこにでも住む(行ける)ことができるようになった。密林を切り開いて畑にし、住居を作ることによって温度や湿度をコントロールし、様々な装置を開発して海の中や宇宙にまで進出を始めた。

こうして人間は、ニッチという、生物を束縛していた限界を取り払ってしまったのだ。人間が圧力としての環境や運命を極端に嫌い、不自由のない生活が本来のものであると考えるようになったのも、環境改変によって作り出された生活に人間がすっかり慣れきってしまったためである。「(1)」という言葉をよく聞くと、これはある意味もはや正しくない。

この環境改変という生存戦略こそ、今日の人間の繁栄をもたらした最大の原因だ(ただし個人レベルで見ると、自発的な環境改変には精を出す、他人による環境改変は好まない。それが

自分にとつては不利な改変であるかもしれないからだ)。

そしてまた、人間が行なうこの環境改変によって、毎年毎年、一万種あまりもの生物種がニッチを失い、地球上から消え続けている。日本からオオカミやカワウソが消えたら人々はそのことに容易に気がつくが、体長数ミリ以下の昆虫が消えても気づく人などまずいない。昆虫は種類が多く、日本にも一〇万種あまりが生息しているといわれている。しかしそのほとんどは目立たないので、専門家さえ、どの種がいつ消えてしまったのか把握することは難しい。

自然破壊や環境悪化などを考える場合、人間はそれらが自らの本能(「人間を人間たらしめているもの」と深いつながりのあることを忘れている。そして両者の関係を無視したまま、科学技術の発達や社会制度の変更などで問題を解決しようとする。

けれども人間が直面している問題のほとんどは、資源、空間、時間の無限性を前提に生まれた人間の本能が、その前提の崩壊を受けつけないまま必然的に生み出し続けてきたものばかりだ。

「自然との共生」を唱える際も、人間は自らが環境を改変する動物、^(a)他の生物の住居(ニッチ)を破壊して初めて生きることが出来る生物であることを忘れがちだ。事実、人間が手を引くことによって一度失われたニッチが回復してくる例はきわめて多い。前に述べた渡良瀬遊水地やビキニ環礁やチェルノブイリの現実が示しているのも、このことに他ならない。⁽²⁾

確かに人間が住む場所にも緑(自然)は生じてくる。しかしそれは単に緑色をしているというだけであって、元々の緑とは異なる、人間と折り合いをつけて生きていける生物が作り出した⁽³⁾

緑だ。

さらに時代を遡り、私たち自身の子どものころの風景(私たちは多くの場合、そこを目指して「自然との共生」を願っている)にしても、それまでの人間が長期間にわたってさんざんに環境改変を繰り返した果てにできあがった、ある一過性の風景にしかすぎない。

私たちがいま持つ自然も、そして回復や保存を目指す自然も、どれもほとんどが実は人間の圧力下に生まれた自然なのだ。

ところが私たちは、⁽⁴⁾個人的記憶の中にある風景を本来の自然と感じ、幼馴染みの植物と幼馴染みの動物さえ視界に入っていればそれでよしとし、その他数多くの目に見えない(意識に入っていない)地味な生物のことについては、そうした生物が存在している(いた)という事実を考えることすら思いつかない。

自分が生まれる以前の自然がどうであろうが、人間はともかくも自分の原風景こそが「本物」であるとししか認識しないのだ。

同様に初めて訪れた外国はその時点での風景が原風景となる。それが **b** 恐るべき自然破壊の果ての風景であったとしても、日本人は古城やヒマワリ畑のあるヨーロッパの風景を本物の風景として認識し、しきりに賛嘆するのである。

こうした事態が生じるのは本能的な学習効果によるもので、生物の宿命として回避することがどうしてもできない。

自然との共生とは、**c** 「自分にとって懐かしい自然、自分にとって個人的に重要な自然をとっておきたい」という、まことに自己中心的な利己的欲望なのだ。さらに悪いことにはそのことに誰も気がつかず、自分たちは利他的で自己犠牲的な自然保

護活動を行なって他人のために尽くしている、その私を尊敬し、指示に従えとまでも要求する。

人間による環境の改変、人間に適したニッチの創造は、多くの種の絶滅の傍ら、地球上にまったく新しい風景を作り出すことになった。それを地球全体(といっても表面だけだが)の家畜化と呼ぶこともできる。

今日、人間は多数の家畜を飼っている。同時にまた多数の野菜や果樹も栽培している。それらは原種と呼ばれる野生種から人間が改良したもののだが、その形態や生態は、オオカミを祖先とするイヌ同様、もはや原種とは似ても似つかないものとなっている。毒のある植物は毒を失い、種子を持っていたものが種子を失い、小さな果実はどんどん巨大化し、豚は体毛を失い、実験用マウスは形態、行動、生理などの点でイヌ以上に多様化している。 **a**

彼らは人間の管理下において生存しているのではあるが、同時にまた、体内共生菌などを除いて唯一、真の意味において人間と共生している生物たちでもある。 **i**

雑草や害虫など、家畜でも作物でもないのかつてないほどに繁殖している種も確かにいる。 **u** しかしそれも、人間が彼らに適した環境や餌をせつせと作り出しているからであって、家畜同様、彼らを飼い慣らしているのとなんら違いはない。

e 中には薬剤に耐性を持つ昆虫など、人間側の都合に合わせて特異な生理を発達させたグループも現われており、これも家畜化と呼んでいい。

人間と関わり、その過程で生き残っていく生物は、多かれ少なかれこうした作用を受けざるをえない。その意味で私たちが普段目にする生物のほとんどは動物も植物もすべて家畜だし、それらによつて構成されている風景もまた家畜風景である。

(高橋敬一『自然との共生』というウソから)

(注1) ニッチ＝ある生物が生態系の中で占める位置。

(注2) 渡良瀬遊水地やビキニ環礁やチェルノブイリ＝いずれも重度放射能汚染地域を示している。

1 本文中の **a** ・ **b** ・ **c** に入る語の組み合わせとして適切なものはどれか。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ア | a | むしろ | b | あたかも | c | いかに |
| イ | a | ただし | b | つまり | c | すなわち |
| ウ | a | つまり | b | もし | c | むしろ |
| エ | a | すなわち | b | いかに | c | まさに |
| オ | a | あたかも | b | たとえ | c | よもや |

2 **(1)** に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

- | | | | |
|---|-----------|---|-----------|
| ア | 環境も自然の一部だ | イ | 人間も自然の一部だ |
| ウ | 自然も運命の一部だ | エ | 自然も生活の一部だ |

3 **(2)** このこと とあるが、その内容として適切なものはどれか。

ア 地球上の生物のどの種がいつ絶滅したのかなどを把握するのは専門家でも難しいこと。

イ 科学技術の発達や社会制度を見直していくことで、環境問題を解決しようとする事。

ウ 人間の本能が、資源や空間、時間の無限性を必然的に受けつけないように働くこと。

エ 人間が生きていくためには、他の生物のニッチを変えざるを得ないということ。

4 **(3)** 人間と折り合いをつけて生きていける生物 とあるが、どのような生物か。

ア 自然破壊や環境悪化を生み出し拡大させながら繁殖する生物。

イ 昔から目立たずに生息し続けていた数多くのごく小さな生物。

ウ 空いているニッチに適応することによつて絶滅を免れた生物。まぬか

エ 人間が作り出したニッチを変化させながら成長を続ける生物。

5 **(4)** 個人的記憶の中にある風景 とあるが、どのような風景か。

ア 本来の自然が豊かに存在し、共生できた子どものころの風景。

イ 現実とはかけ離れた、個人の願望とも言える純粹で幻想的な風景。

ウ それまでの人間が長時間手を加え続けた結果形成された風景。

エ 目に見えないたくさんの地味な生物の存在が認識された風景。

6 本文中の「ア」～「エ」のいずれかに、次の一文が入る。
最も適切な位置はどれか。

彼ら以外の生物は人間との共生という状況からはほど遠く、生き残ることができるものが生き残っているというだけにすぎない。

7 次の会話は、本文の内容について生徒A～Eが話し合っている場面である。この会話を読んであとの(I)・(II)の問いに答えよ。

A 「人間にそのつもりがなくても、結果的にその生物に適した環境を生み出していれば、その生物が繁栄するのは当然だ。」

B 「人間が育てる現在の多くの野菜や果樹、家畜は、現生種から改良に改良を重ね続けた結果の代物だということか。」

C 「形態や生態についての多様化は見られるけれど、遺伝子の影響により、原種の性質や特性が消失することはないんだね。」

D 「自分にとって初めて訪れて見る外国の風景が『本物』であると認識するのは、人間の生まれつきの働きによるものだから、仕方のないことなんだね。」

E 「今後も人間が環境改変を継続すれば、ことになるんだ。」

(I) 生徒A～Dの発言のうち、本文の内容として適切なものはないものはどれか。

(II) に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 生物界に新たなニッチが誕生し、家畜化は衰退する
イ 全ての生物が家畜化によって改変に対応する能力をもつ
ウ 生き残っていく生物の家畜化がどんどん進んでいく
エ 家畜化される生物が本来の機能を失い、結果的に絶滅する

